

夢まち語り リレートーク

	挨拶
曾田委員長	<p>第6次大口町総合計画の基本理念「みんなで進める自立と共助のまちづくり」のルールを作りましょうと条例づくりを始めた。自分たちの町は自分たちでという住民自治のために、大口町のまちづくり団体参加者（人口の1割の方々が、本日オープンのみかかせて広場で話し合い、実行してきた下地がある。そうしたこと（住民自治）をやりやすくするためのルールが条例。今日の発表も参考にまとめていく。</p>
ゲスト	トーク概要
田中伴幸さん	<p>なぜ農業を行おうとしたのか 東京で働き4年半前に祖母の他界でUターンし農業を始めた。昔からブドウは見てきたが、何も知らなかった。ブドウの花、一房づつ1週間の間に15000房ぐらい形をつくる、これを収穫まで続ける。分からないことばかりで4年間が経った。出荷の形態は直売のみ。お客の話を直接聞き、感じ、考えるのが直売の楽しみ。 これからの農業でいたいこと 会話を通して農家や農業を知ってもらい、生産者対消費者ではなく、生活者として分かり合いたい。続けてきて町内・近隣市町の若い農業仲間と友達になり、そういったアピールをしていく。家でお客と餅つきをした。今年は、畑の作業の体験し、収穫もして農業を知っていただく、そうした活動もしていきたい。 ブドウの収穫はいつ？ 7月の最終から8月、最後が9月15日ぐらい。 どうして東京からUターンしてまで農業なのか 東京では夜中に働き、パソコンにずーと向かう仕事をしていた。祖母が亡くなり、急遽出荷を手伝った。早朝から日が落ちるまで働き、一日の仕事が終わるという充実感と健康的で体にいいと実感したのが一つ。直接お客とダイレクトに交流ができることが自分の性分と合っている。</p>
木野弓子さん	<p>なぜ活動を始めたのか 重度知的障害の子供がいる。多くの仲間と出会い、障害のある人もない人も誰もが生き生きと暮らせる町を創ろうとSHIPおおぐちを立ち上げ、余暇活動から始めた。障害のある人は余暇を楽しむことが困難。太鼓、エアロビクス、体操、パン作りの他、町の行事に集団で参加。出来ることをする、親も子もみんな楽しむを基本にしている。発達障害の遊びの学校、キャラバン隊など活動を広げている。 つながる大切さ 周りに障害を理解する人を増やし、助けてもらいたい。繋がる大切さを一番知っている。一昨年、まちづくり研修会に参加、OH!Townプロジェクトでまちづくりフォーラムを開催し、まちづくり団体の繋がる場、町民活動センターを作りたいと、まかせてネットを立ち上げ、今日を迎えた。 町民活動まかせてネット 町民活動センターは必要ですというだけではだめ、私たちに出来ることをして、多くの方に見て、知って、その上で何とかできるといい。まかせて広場はこれからの大事。 人が好き 代表の任はおこがましい、でも人が好き、繋がって、広がるを私が一番体験している。見て、話して、理解してもらい、これが大事、これを実感している。大口町は社会的弱者といわれる子供や高齢者、障害者にやさしい町になれば、誰にでもやさしい町、住みやすい大口町になるように少しづつでも努力したい。</p>

夢まち語り リレートーク

ゲスト	トーク概要
三輪純一さん	<p>サラリーマンから区長を 長年サラリーマンをしてきて、学校のこと地域のことすべて女房任せで来た。地域へお返しの気持ちで区長を受けた。河北区は500戸ほど、まとまりのいい区である。</p> <p>ごみへの関心 ごみ焼却施設がある地域として、ごみへの関心が高い。生ゴミを減らす運動をはじめ、形にしようとした平成15年区長になった。 当初は納豆菌を使うもので大きな設備はいらない方法。ごみ集めを地域の中で、それを河北老人クラブが引受け、軽トラックも老人クラブで出して行った。 スタート時は上郷区のみで行っていたが、今はオール河北で行っている。出来上がった堆肥は質も良くスーパーで売っているものと同じ。取り合いの状況、畑などで使って野菜や花づくりをしている。各家庭が分別に協力して生ゴミが肥料になり、まちの美化と環境にやさしいまちにした。</p> <p>河北から大口町全域へ 区民の高い意識と協力でやってこれた。これを大口町全体に広げられるといいが、うまくいかない。議会では大型か小型か、集中か分散かで話されたと聞いたが、結論が出ず、最近話題にも上らない。 しかし今は、世界的にCO2削減の問題が盛んになっている。生ゴミの堆肥化は、食べ物を燃やすのではなく堆肥にするという我々にできる一番いい方法ではないか。皆さんと協力して、美しい大口町、きれいな大口町にしていきたいと思っている。</p>
酒井麻利子さん	<p>「大口大好き」を伝える 大学3年生、就職活動真っ最中、いつも聞かれることは「どんな仕事に就きたいですか？どんな仕事がしたいのか？」。以前の私なら何も答えることはできなかった。でも今は、地域社会に関わる仕事がしたい。人と人をつなげる仕事がしたいと答える。 それは、成人の集い実行委員会の経験から始まった。地域貢献事業で行った花火の打ち上げで多くの団体に助けてもらった。今、その一つの愛知北FM放送にパーソナリティという形で参加している。パーソナリティを始めて、より大口町のことを知りたいと思うようになった。毎月広報おぐちなどを見ていろいろな団体の行事に出かけ、見たことをラジオで伝えている。自分の活動の範囲が広がった。</p> <p>多くの人との出会い この活動で多くの人と知り合えていい経験になっている。出会った方から話を聞き、自分はまだまだとか、こうすべきだなど多くのことを感じている。普段の自分の生活や大学と自宅との往復だけでは学べないことばかりで、いろいろ考える機会となっている。</p> <p>これから 就職活動中で、どこでどんな形で就職するかは分からないが、大口町に戻って来て、自分が経験してきたことを子供たちや世界の人たちに伝えていく仕事ができたらと思っている。</p>

夢まち語り リレートーク

発言者	みんなでトーク
木野弓子さん	21歳の酒井さんの堂々とした発表と、町や地域のことを良い感性で受け止めていることをうれしく思う。
三輪純一さん	農家の長男で生まれ、親の仕事をずっと見てきたが、田中さんの情熱に感じいった。
田中伴幸さん	三輪さんの食物残渣を使った堆肥の話、自分も食物残渣を使った堆肥を知多の知り合いから分けてもらっている。食べ物を直接堆肥にするので、栄養価が高い。毎年この時期になると畑に入れていく。白山ふれあいの森の落ち葉が凄いので500袋ぐらいをかき集めて堆肥に混ぜている。
酒井麻利子さん	農業をしている若い人がいることに興味をもった。田中さんにもう一度何故農業を職業にしたのか聞きたい。
田中伴幸さん	祖母が亡くなり、ちょっと手伝ってよと言われ、手伝ううちにお客さんからあんたがやればいいのか、もうブドウは食べられなくなるのという声を聞いた。はじめから職業にという考えはなく、あの年齢だったから、農業をしたと思う。
丹羽青年会議所	<p>私こんなことやっている</p> <p>4名の方、大変素晴らしい。JCで、キャンドル作りで参加。20歳から4歳の青年が参加、明るい豊かな社会をつくりたいと頑張っている。これから各種団体の方とも手を取り合っていきたい。</p>
	ま と め
曾田委員長	<p>大口町に関わるきっかけは、5年ほど前、NPO活動促進条例の関係で手伝ってほしいと声がかかり、素晴らしい町だと思ったところから。</p> <p>今日、1階・2階・4階で子ども達から若い人が続々と集まり、つながり触れ合っている。そういう場所をつくる、それが今日のまかせて広場。</p> <p>昔この地方はみんな農業で、同じ時期に同じことを考えて同じことをやればよかった。今は、いろんな仕事、いろんな暮らしがあり、よそから来る人、出て行く人がたくさんいる。多様化している中で、思いを同じにして町を元気に、いい町にしていこう、といっても一筋縄ではいかない。これが条例の話の発端。</p> <p>触れ合える場所、一緒になってできる場所というのが、町民活動センター、この二つが両輪になって進もうとしている。町民の皆さんの後押しがあるととってもいい。</p> <p>今日は若い人の参加がいっぱいあって、大口町は前途洋々たるものがある。しかし、若い人の力を大口町に引き戻す、定着させることが大事になる。皆さんの力で大口町を良くしていきたい。</p>